

学校教育目標

自らを律し、社会的に自立し、健全な市民生活を送るための力の育成



中央中だより

第11号

平成23年10月20日

尼崎市立中央中学校

〒660-0051 尼崎市東七松町2丁目5番67号 TEL (06) 6481-5351 Fax (06) 6481-5352 <http://www.ama-net.ed.jp/school/J03/index.htm>

君の歌声でみんなが元気になる！

合唱の朝練始まる — 「一致団結」

いよいよ「文化祭」。朝早く校舎の窓から力強い歌声が聞こえてきます。全クラスが「団結」を競い合う「合唱コンクール」も間近です。生徒会・文化クラブなどの演技・演奏もすばらしいですが、偶然集まった40人が一つになれるのが「合唱コンクール」。

「合唱」を通して「心の絆(きずな)」を深めていく—今しかできない貴重な体験です。特に3年生にとっては「最後の文化祭」。3年生は自分たちから「朝練」を申し出たそうです。そんな上級生の姿を下級生は見えています。女子も男子も目一杯、一丸となって声の限りに歌いきる。ここに「本物のかっこよさ」があります。毎年、アルカニックの中高合同音楽祭で、各校のそんな姿に大きな感動をいただいています。その舞台上「中央の歌声」が鳴り響くことを、私は期待しています。

卒業生の思い — 「はばだけ未来」

東日本大震災で甚大な被害を被った港町に気仙沼市という町があります。尼崎市が支援を続けている町ですが、その町の階上(はしがみ)中学校の卒業生の「答辞」が、各方面で反響を呼んでいます。あえて今、その感動のこぼれを紹介しします。その理由は、一つに、全校生にはこの体育館で大勢の保護者の前で文化祭や卒業式などの「行事」ができる「幸せ」を実感してほしいからです。二つ目は、特に3年生には「卒業式」で歌う「学年合唱」をイメージしてほしいからです。それだけのプライドを持って、歌いきってほしいからです。



おしゃれと身だしなみ

1年学年便りから

「なるほど!」と思うことが書かれてありましたので、紹介します。「オシャレとは、目立つように服装などで楽しむこと。身だしなみとは時間や場所に配慮し、周りの人を気づかい、服装や髪を整えること。」

合唱コンクールでは、もちろん「身だしなみ」も採点対象になります。だから…というわけではないのですが、オシャレは、プライベートやこれから先もいくらでもできます。しかし、大人として「身だしなみを整える」訓練は、今しかできません。身だしなみを整えることは、心や意識を整えることでもあります。「個性」というものを勘違いせず、正しく発揮する方法をよく考えることです。



自分に納得のいくことば

女子マラソンで1992年のバルセロナ五輪で銀メダル、4年後のアトランタ五輪で銅メダルを獲得した有森裕子さん。ゴールインしたときの言葉が「自分で自分をほめたい」でした。2大会連続のメダルもすごいけれど、足の故障など一時は「マラソンをやめたい」とまで思い詰めたあとの銅メダル。死力を尽くしてゴールインした跡のことばがこれです。全力を尽くしきった者にしか発せないことばです。

おそらく3年生でクラブを引退したときにもこんな気持ちになったと思いますが、できれば合唱コンクールが終わったときにこんな気持ちになればいいですね。

有森さんは今は、母校の日本体育大学で客員教授をされていますが、現役時代に何人かの恩師から「おまえはできる」「やる気が大事なんだ」と言われ続けたそうです。自分



自分を大切に思うこと、やろうという強い意志を持つこと、そして、その結果自分に納得のいく終わり方をする。こと。

「自分をほめる」ということは、いくつかの試練を乗り越えた者だけのことばだと実感しました。

中総体が雨で中止 残念だあ

「今年は上位をねらえそうです」と体育科から聞いていた尼崎市立中学校総合体育大会。残念ながら、前日からの豪雨で中止になってしまいました。連覇を狙っていた生徒たちの無念がわかります。仕方ない。次は、合唱・展示・クラブでがんばっていきましょう。



今後の行事

- 10MPP(□) きょうちくとう運動会(ベイコム体育館)
- ONMPT(□) 1□2年合唱コンクール(本校体育館)
- ONMFP(□) 3年合唱コンクール(本校体育館)
- ONMPV(□) 文化祭(舞台発表・展示発表)(本校体育館等)
- OOMR(□) 中高合同音楽祭(アルカニックホール)
- OOMNF(□) 尼崎市英語祭(園田学園高校)
- OOMOR(□) □OV□ □GP年トライやる・ウィーク

今日は未曾有の大震災の傷も癒えないさなか私たちのために卒業式を挙行していただきありがとうございます。ちょうど10日前の3月12日。春を思わせる暖かな日でした。私たちは、そのキラキラ光る日差しの中を希望に胸をふくらませ、通い慣れたこの学舎を57名そろって巣立つはずでした。前日の11日。一足早く渡された、思い出のたくさん詰まったアルバムを開き、十数時間後の卒業式に思い出を馳せた友もいたことでしょう。「東日本大震災」と名付けられる天変地異が起こるとも知らずに…。

階上中学校と言えば「防災教育」と言われ、内外から高く評価され、十分な訓練もしていた私たちでした。しかし、自然の猛威の前には、人間の力はあまりにも無力で、私たちから大切なものを容赦なく奪っていきました。天が与えた試練というには、むごすぎるものでした。つらくて、悔しくてたまりません。時計の針は14時46分を指したままです。でも、時は確実に流れています。生かされた者として顔を上げ、常に思いやりの心を持ち、強く、正しく、たくましく生きていかなければなりません。命の重さを知るには、大きすぎる代償でした。

しかし、苦境にあっても、天を恨まず、運命に耐え、助け合って生きていくことが、これからの私たちの使命です。私たちは今、それぞれの新しい人生の一步を踏み出します。どこにいても、何をしようとも、この地で、仲間と共有した時を忘れず、宝物として生きていきます。

後輩の皆さん、階上中学校で過ごす「当たり前」に思える日々や友達、いか貴重なものかを考え、いとおしんで過ごしてください。先生方、親身のご指導、ありがとうございました。先生方がいかに私たちを思っていてくださっていたか、今になってよくわかります。地域の皆さん、これまで様々なご支援をいただき、ありがとうございました。これからもよろしくお願ひいたします。お父さんお母さん、家族の皆さん、これから私たちが歩いていく姿を見守ってくださいます。必ずよき社会人になります。

私は、この階上中学校の生徒でいられたことを誇りに思います。最後に、本当に、本当に、ありがとうございました。 区関 23年3月22日 卒業生代表 梶原 辰俊